



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イラク・シリア：「イスラーム国」によるカリフ制樹立宣言への反応

6月29日、「イラクとシャームのイスラーム国（ISIS）」は報道官の演説を発表、カリフ制樹立を宣言した。ISISのシューラー評議会は、同派の指導者であるアブー・バクル・バグダーディーをカリフに推挙して忠誠を表明すると共に、他のイスラーム過激派諸派に対してもカリフに忠誠を誓うよう呼びかけた。これに伴い、同派は団体名から地名の「イラクとシャーム」をはずし、「イスラーム国」と改称した。さらに、7月1日にはバグダーディーの演説を発表した。その中で、バグダーディーはアジアからアフリカに至る、イスラーム過激派が活動している地域、ムスリムが紛争の当事者となっている地域に言及し、「イスラーム国」拡大のために武器をとることを呼びかけ、十字軍・ユダヤ・侵略者の傀儡に対して立ち上がるよう扇動した。また、バグダーディーはムスリムに対し「イスラーム国」に移住するよう呼びかけた。

カリフ制樹立宣言の重要性は、「イスラーム国」がイスラーム過激派を指導する立場を表明し、他の団体・活動家に忠誠を表明するよう迫った点にある。また、ムスリム一般に対し「イスラーム国」への移住を呼びかけた点は、同派が外部から供給される資源を実際の活動地であるシリアやイラクでの闘争に投入するという手法を強化しようとしていることを示している。ここで重要となるのは、シリアやイラクだけでなく、世界各地のイスラーム過激派がどの程度「イスラーム国」を支持するかである。なぜなら、カリフ制樹立宣言は従来イスラーム過激派の中で指導的な立場にあったアル=カーイダの存在に対する挑戦だからである。また、カリフ制樹立宣言のような冒険的試みにより、「イスラーム国」はイスラーム世界から拒絶され、支持を失いかねない。

今のところ、「イスラーム国」に支持や忠誠を表明する動きは無名の団体や活動家からのものに限定されている。その中では、6月30日に「エルサレムのイスラーム国支援者団」を名乗る声明が出回り、ヨルダン川西岸で発生したイスラエル入植者神学生3名の殺害事件を「イスラーム国への贈り物」とであると主張したことが注目される。このような団体の実在性や声明の信憑性には疑問があるが、カリフ制樹立宣言への反応として世界的にイスラーム過激派の活動が活発化する可能性に警戒が必要であろう。その一方で、アル=カーイダや、他の著名なイスラーム過激派組織からは、カリフ制樹立宣言以前から「イスラーム国」への支持や共感は寄せられていない。7月1日には「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」がイラクでのムジャーヒドゥーンの勝利を祝福する声明（6月22日付）が出回ったが、声明はアイマン・ザワーヒリーの指導性・権威を是認する立場に基づく内容だった。カリフ制樹立宣言の影響を推し量る上で、今後もイスラーム過激派の有力団体・活動家の反応を注視する必要がある。

（イスラーム過激派モニター班）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799